



第1回 クラスの小さな仲間たち

各教室で飼育している生き物たちを紹介します。幼少期に生き物を飼育することは、環境意識を高めたり、自然科学への知識の基礎を養ったりする上でもとても重要です。

また、アニマルセラピー効果があったり、人間関係の構築にも一役かったりします。しかし、一番の効果は、「命を感じること」だと思います。少し強く握るだけで死んでしまう小さな命だからこそ、大切に扱おうとする気持ちが育つのかもかもしれません。小さな仲間たちと過ごすこの1年間で、子どもたちにはたくさんのお話を学んでほしいと思います。

2-1: イモリ、アマガエル、カナヘビ、ダンゴムシ

1組には手に持って遊べる生き物がたくさんいます。子どもたちが毎日のように触っているのも、どの子も持たれることに慣れていて、(もしかしたら諦めているのかもかもしれませんが…)

一押しはアマガエルです。カメレオンの様に色が変わる皮膚やかべにはりつく吸盤は、他のカエルにはなかなかない能力ですし、顔立ちがとてもかわいいです。



2-2: アカガエルのオタマジャクシ、トカゲ、カナヘビ

2組のトカゲとカナヘビは、クラスの子たちで飼育環境を作っています。子ども達が大きな虫かごをもって、苔をいれたり木を入れたりするのを見ると、「思考錯誤」という言葉が自然と浮かんできます。とてもいい学びだと思います。

カナヘビは、古くは「愛蛇(かなへび)」という字だったそうで、顔つきやしぐさがとてもかわいらしく、SOLANのどの学年からも大人気です。



2-3: 魚(ホンモロコ)、エビ、イモリ、カタツムリ

3組は、Ms.Danが家で使わなくなった巨大水槽をもってきてくれたので、その水槽で魚とエビを飼っています。また、実は生き物が苦手だったけれど、最近生き物にチャレンジしはじめた鎌田先生が捕まえたカタツムリもいます。

魚やエビのような水棲生物はとても不思議です。毎日見ていると自然と、「どうやって水の中で息をしているんだろう」といった疑問が湧いてきます。もしかしたら、そこから探究テーマが決まることもあるかもしれませんね。



階段踊り場: ニホンイシガメ、カブトムシの幼虫、トノサマガエルのオタマジャクシ

踊り場では、大きないれものを使って飼育しています。トノサマガエルのオタマジャクシ

は、今週卵塊を手に入れたので、卵からオタマジャクシになる様子を子どもたちに見せたかったのですが、学校に持ってくる日にはオタマジャクシになっていました……。

最近はオタマジャクシを見たことがない人も増えているそうなので、知識だけでなく、実際にカエルになる様子を子どもたちに見てもらいたいと思っています。



もし、オタマジャクシを家でも飼育してみたい場合は、岩本までお知らせください。
1匹のオタマジャクシをカエルになるまで飼育・観察することは、とても貴重な体験になると思います。
(カエルになった後は、引き続き飼育してもいいですし、返却していただいても構いません)